

社団法人 日本感染症学会

第83回総会

平成21年4月23日 13時00分～14時00分

京王プラザホテル 第1会場

議 事

第1号議案 平成20年度事業報告および計算書類承認について

第2号議案 運用財産剰余金処分案承認について

第3号議案 財産目録（平成21年2月末日現在）承認について

第4号議案 平成21年度事業計画および収支予算案承認について

第5号議案 役員改選について

第6号議案 次期会長承認について

第7号議案 次々期会長候補者選任について

第8号議案 次々期総会開催地および会期について

第9号議案 名誉会員および功労会員承認について

その他

第1号議案 平成20年度事業報告および計算書類承認について

事業報告

1. 平成20年度優秀業績の表彰

平成20年度優秀業績については慎重に検討された結果、

草地信也氏（東邦大学医療センター大橋病院肺がんセンター・第三外科）他10名

「Success of countermeasures against respiratory infection after digestive surgery by strict blood and fluid resuscitation」 (Journal of Infection and Chemotherapy Vol. 13, p172-6)

以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

関 康博氏（熊本大学大学院医学薬学研究部血液内科学感染免疫診療部）他11名

「Potent Inhibition of HIV-1 Replication by Novel Non-peptidyl Small Molecule Inhibitors of Protease Dimerization」 (Journal of Biological Chemistry, Vol. 282, No. 39, p28709-20, 2007)

上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

2. 講演会

平成20年4月17日、18日、松江市・島根県民会館およびサンラポーむらくもにおいて第82回学術講演会を富岡治明会長のもとに開催した。

a 会員の業績研究発表		493題
b 特別講演		2題
1 真菌感染症：問題の現状と研究の新展開	司会：東京通信病院 木村 哲 帝京大学 山口 英世	
2 呼吸器感染症治療の現状と将来展望	司会：北里大学北里生命科学研究所大学院感染制御科学府 砂川 慶介 日本赤十字社長崎原爆諫早病院 斎藤 厚	
c 招請講演		2題
1 結核免疫の昨日—今日—明日	司会：長崎大学 原 耕平 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 露口 泉夫	
2 ウイルスの病原性発現機構	司会：九州保健福祉大学 南嶋 洋一 東京大学大学院医学系研究科微生物学 野本 明男	
d 教育講演		20題
1 日本とアジアにおける新興感染症の現状と対策	司会：国立感染症研究所感染症情報センター 岡部 信彦 大阪大学微生物病研究所・感染症国際研究センター 大石 和徳	
2 新しい敗血症の診断と治療	司会：横浜市立市民病院感染症部 相楽 裕子 慶應義塾大学医学部中央臨床検査部 小林 芳夫	
3 ICTが取り組む手術部位感染（SSI）対策	司会：NTT西日本東海病院外科 品川 長夫 兵庫医科大学感染制御学 竹末 芳生	
4 見逃してはならない重症婦人科感染症～骨盤腹膜炎，肝周囲炎をはじめとして～	司会：帝京大学溝口病院産婦人科 川名 尚 愛知医科大学感染制御学 三嶋 廣繁	
5 ピロリ菌感染症と酸関連疾患の治療	司会：杏林大学医学部感染症学 神谷 茂 島根大学医学部第二内科 足立 経一	
6 麻疹ウイルス研究の最前線	司会：東京都立墨東病院感染症科 大西 健児 北里生命科学研究所ウイルス感染制御 中山 哲夫	
7 ゲノム創薬をベースにした感染症治療薬の開発 感染症治療に向けた抗体創薬	司会：大阪成人病センター 正岡 徹 東京理科大学薬学部 増保 安彦	
8 O157感染症の新規治療薬の創製	司会：国立感染症研究所 渡邊 治雄 同志社大学生命医科学部医生命システム学科 西川喜代孝	
9 効率的 <i>in vitro</i> 抗体作製システムの開発：感染症を含む疾患治療用抗体創製への展望	司会：京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 笹田 昌孝 岡山大学大学院自然科学研究科細胞機能設計学 大森 齊	
10 市中感染型MRSA（MRSA CAPをどう防ぐ）	司会：聖マリアンナ医科大学微生物学 嶋田甚五郎 新潟大学大学院医歯学総合研究科細菌学分野 山本 達男	
11 多剤耐性緑膿菌への対策	司会：神戸市立医療センター中央市民病院小児科・感染症科 春田 恒和 大阪大学医学部附属病院感染制御部 朝野 和典	
12 感染病予防のための粘膜ワクチン開発	司会：島根大学医学部耳鼻咽喉科 川内 秀之 東京大学医科学研究所感染・免疫部門炎症免疫学分野 清野 宏	
13 ライム病基礎研究の現状と将来展望	司会：和歌山県立医科大学 秋本 茂 福山大学薬学部 福長 将仁	
14 感染症法改正と結核予防法廃止後の感染症医療	司会：富山県衛生研究所 倉田 毅 国立病院機構東広島医療センター呼吸器科 重藤えり子	

15	ヘルペスウイルスの潜伏感染と慢性疾患	司会：愛媛大学大学院医学系研究科生体統御内科学 東京慈恵会医科大学ウイルス学講座	安川 正貴 近藤 一博
16	C型肝炎ウイルス感染と肝発癌	司会：九州大学病院総合診療部 大阪大学微生物病研究所	林 純 森石 恆司
17	わが国におけるプリオン病の現況	司会：長崎大学医歯薬学総合研究科 東京医科歯科大学大学院脳神経病態学	片峰 茂 水澤 英洋
18	自己炎症性症候群	司会：京都府立医科大学大学院免疫・微生物学 九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野（小児科）	今西 二郎 原 寿郎
19	感染症の適正な化学療法のためのガイドライン	司会：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座 淳風会倉敷第一病院呼吸器センター	河野 茂 松島 敏春
20	リケッチアおよび関連微生物の病原因子	司会：三萩野病院 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科感染症制御学分野	澤江 義郎 小田 紘
e	会長講演		1 題
	抗酸菌感染症の化学療法薬開発と免疫補助療法の現況	司会：大分大学・大分中村病院総合臨床研究センター 島根大学医学部微生物・免疫学	那須 勝 富岡 治明
f	緊急討論		1 題
	新型インフルエンザを巡って、どう考え、どう対処するか	司会：長崎大学・伴帥会愛野記念病院 北海道大学大学院医学研究科疾病制御学講座	松本 慶蔵 喜田 宏
	1) 新型インフルエンザウイルスの出現に備えて		
	2) H5N1高病原性鳥インフルエンザから新型インフルエンザへの危機	国立感染症研究所ウイルス第3部	田代 真人
g	シンポジウム		9 題
1	耐性機構研究のUpdate—疫学・症例から耐性メカニズムまで—	座長：東邦大学医学部微生物・感染症学講座 北里大学	山口 恵三 井上 松久
	1) 耐性菌の動向と問題点—諸外国との比較の視点から—	東邦大学医学部微生物・感染症学講座	館田 一博
	2) 耐性菌感染症治療の実際	虎の門病院臨床感染症部	米山 彰子
	3) 進化するβラクタマーゼ—最新知見と臨床的インパクト	国立感染症研究所細菌第二	柴田 尚宏
	4) 排出機構—多剤耐性化と病原因子のキー・プレイヤー	大阪大学産業科学研究科，科学技術振興機構さきかけ	西野 邦彦
2	ゲノムからみた感染症	座長：東京大学医科学研究所先端医療研究センター 山口大学大学院医学系研究科	岩本 愛吉 白井 睦訓
	1) 肝炎ウイルス・ゲノム考	東芝病院研究部	三代 俊治
	2) 薬剤耐性HIVの現状と課題	国立感染症研究所エイズ研究センター	杉浦 互
	3) 子宮頸部HPV感染症の疫学研究とワクチンによる予防	筑波大学・大学院人間総合科学科婦人周産期医学	吉川 裕之
	4) ヒト常在フローラ研究の最前線	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部分子細菌学分野	桑原 知巳
	5) クラミジアの感染・病原性の解析	山口大学大学院医学系研究科情報解析医学系学域生体情報医学ゲノム機能分子解析学分野	東 慶直
3	ノロウイルス感染症の最前線	座長：東京大学大学院医学系研究科・医学部国際保健学専攻国際生物医学講座 国立病院機構東京医療センター小児科	牛島 廣治 岩田 敏
	1) ノロウイルス感染症の基礎	国立感染症研究所ウイルス第2部	片山 和彦
	2) ノロウイルスの疫学	国立感染症研究所感染症情報センター	西尾 治
	3) ノロウイルス感染症の診断	藍野学院短期大学藍野健康科学センター	沖津 祥子
	4) ノロウイルス感染症—その感染対策	慶應義塾大学医学部小児科，慶應義塾大学病院感染対策室	新庄 正宜
4	感染症の迅速診断法の新しい展開	座長：岐阜大学大学院医学研究科再生分子統御学講座病原体制御学分野 東北大学大学院内科病態学講座感染制御・検査診断学分野	江崎 孝行 平潟 洋一
	1) 呼吸器感染症における薬剤耐性菌の遺伝子診断—肺炎球菌を中心に—	長崎大学医学部付属病院検査部	柳原 克紀
	2) マイクロダイセクションを用いた喀痰中の病原体遺伝子解析	山口大学大学院医学系研究科ゲノム・機能分子解析分野	福永 肇
	3) 細菌性食中毒のReal-time PCR法による網羅的迅速スクリーニング	島根県保健環境科学研究所	福島 博
	4) 全身感染症の迅速遺伝子診断法	岐阜大学大学院医学系研究科	大楠 清文
5	ヒトと動物の共通感染症にどう対処するか？ 現状と将来展望	座長：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門 国立感染症研究所ウイルス第一部第五室	渡辺 彰 岸本 寿男
	1) ヒトと動物の共通感染症の現状と課題—特に愛玩動物からの感染症—	国立感染症研究所獣医学部	山田 章雄
	2) 国内におけるQ熱の現状と将来展望	坂総合病院呼吸器科	高橋 洋
	3) オウム病の現状と課題	国立感染症研究所ウイルス第1部	安藤 秀二
	4) わが国のバルトネラ症の現状と課題—猫ひっかき病を中心として—	日本大学生物資源科学部獣医学科獣医公衆衛生学研究室	丸山 総一
6	細菌毒素に関する先端的研究の現状と今後の展開	座長：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病原細菌学 大分大学医学部微生物学講座	小熊 恵二 西園 晃
	1) ウェルシュ菌ゲノム解析を基盤とした毒素産生調節機構	金沢大学医学系研究科感染症制御学	清水 徹
	2) A型ウェルシュ菌感染症に対するα毒素作用の新しい展開	徳島文理大学薬学部微生物	櫻井 純
	3) 病原細菌の分泌装置：その機能と病原性発揮のメカニズム	北里大学北里生命科学研究所	阿部 章夫
	4) 百日咳毒素—予防・診断・疫学への応用—	国立感染症研究所・細菌第二部	蒲地 一成
	5) 肺病変を伴う新しいエンドトキシンショックモデルの解析	愛知医科大学医学部微生物免疫学講座	横地 高志
7	多剤耐性菌における分子疫学的解析の最前線	座長：大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター臨床研究部 岡山大学病院中央検査部	松本 智成 草野 展周
	1) 多剤耐性緑膿菌（MDRP）の分子系統解析と抗菌薬耐性	京都薬科大学薬学部微生物・感染制御学分野	後藤 直正
	2) 日本で分離されたバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の分子疫学的解析		

- 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 狩山 玲子
- 3) 多剤耐性結核菌の分子疫学解析の最前線 XDR-TB蔓延防止の為に
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター臨床研究部 松本 智成
- 8 感染症の卒前・卒後教育—感染症専門医育成のためになすべきこと—
座長：北里大学北里生命科学研究所大学院感染制御科学府 砂川 慶介
東京女子医科大学感染対策部感染症科 戸塚 恭一
- 1) 臨床現場から考える、感染症の卒前・卒後教育 感染症専門医育成のためになすべきこと
亀田総合病院総合診療・感染症科 岩田健太郎
- 2) 米国における卒前・卒後の感染症教育の現状 自治医科大学臨床感染症センター感染症科 矢野 晴美
- 3) 感染症専門医制度：現行制度と将来への課題 佐賀大学医学部附属病院感染制御部 青木 洋介
- 4) 日本感染症学会専門医制度について—日本化学療法学会の抗菌薬適正使用の教育も含めて—
奈良県立医科大学感染症センター 三笠 桂一
慶應義塾大学医学部救急医学 相川 直樹
- 特別発言：病院の立場から
座長：東京慈恵会医科大学感染制御部 小野寺昭一
広島大学病院輸血部 高田 昇
広島大学病院輸血部 高田 昇
- 9 HIV感染症治療の最前線
1) 日本のエイズの歴史を振り返る—地方都市広島の窓から—
2) 進化した抗HIV療法と残された問題 国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター 湯永 博之
3) HAART時代における日和見疾患診療の問題点 東京都立駒込病院感染症科 今村 顕史
4) HIV感染症の医療体制の現状と今後 国立病院機構大阪医療センター 白阪 琢磨
- h ミニ特別講演
私達の研究は今
座長：杏林大学医学部第一内科 後藤 元
久留米大学医学部感染医学講座臨床感染医学部門 渡邊 浩
国立感染症研究所細菌第一部 池辺 忠義
- 1) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発症機序
2) 樹状細胞と感染免疫応答 東北大学病院遺伝子・呼吸器内科 菊地 利明
3) 呼吸器感染症に対するreal-time PCR法による細菌とウイルスの網羅的検索 北里大学大学院感染制御科学府 長谷川恵子
4) 深在性真菌症の血清診断（β-D-グルカンを中心に） 昭和大学医学部臨床感染症学 吉田耕一郎
5) 酸化ストレスマーカーの現況と今後の展開 福井大学医学部小児科 塚原 宏一
6) 肺真菌症の診断と治療 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座（第二内科） 泉川 公一
7) 変わりゆく連鎖球菌感染症 B群連鎖球菌・G群連鎖球菌感染症を中心に
獨協医科大学病院感染総合対策部、臨床検査医学講座 吉田 敦
- 8) ヒト・メタニューモウイルス感染症—ウイルス学的性状および集団感染—
久留米大学医学部感染医学講座臨床感染医学部門 原 好勇
- 9) 進化する薬剤耐性肺炎球菌 奈良県立医科大学附属病院感染症センター 笠原 敬
- 10) 我が国で発生した播種性トリコスポロン症とその分離真菌に関する大規模疫学研究
大分大学医学部感染分子病態制御講座（内科第二） 時松 一成
- i ワークショップ
1 感染症に伴う生体反応
座長：杏林大学医学部総合医療学教室 河合 伸
- 1) 2次元電気泳動を用いたインフルエンザウイルス感染後の重症細菌性肺炎における好中球由来プロテアーゼの関与に関する検討
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座（第二内科） 関 雅文
- 2) *Haemophilus influenzae*の気管支上皮細胞への侵入メカニズム 信州大学医学部附属病院内視鏡診療部 山崎 善隆
- 3) 細菌感染症に伴う好中球の遺伝子発現変化に関する検討 帝京大学医学部微生物学講座 祖母井庸之
- 4) 敗血症病態におけるIL-8の血管内皮細胞に対する作用についての検討 京都大学医学研究科血液・腫瘍内科学 三好 隆史
- 5) 実験的敗血症マウスの生体からの菌排除におけるIL-trans-signalingの重要性 杏林大学保健学部免疫学 小野川 傑
- 2 麻疹の診療と疫学
座長：国立感染症研究所感染症情報センター 多屋 馨子
及川医院 及川 馨
- 1) 小児の麻疹の臨床
2) 2007年に多発した成人麻疹の臨床的検討 東京都立墨東病院感染症科 大西 健児
- 3) 麻しん 地域発生の現況把握と短・長期流行予測アルゴリズムの検討 北海道立衛生研究所企画情報室 長谷川伸作
- 4) 東京都教育委員会の麻疹対策 東京都教育庁学務部学校健康推進課 寺西 新
- 5) 2012年の国内麻疹排除に向けた今後の麻疹対策 国立感染症研究所感染症情報センター 岡部 信彦
- 3 細胞内寄生菌感染症と宿主免疫応答
座長：九州大学大学院医学研究院細菌学分野 吉田 眞一
- 1) ヒト肺上皮細胞における*Legionella pneumophila*が誘導するCCL20発現機構
琉球大学大学院医学研究科病原生物学分野 照屋 宏充
- 2) リステリア感染マクロファージで誘導されるIL-18産生におけるlisteriolysin Oの関与
京都大学大学院医学研究科微生物感染症学 原 英樹
- 3) ピコリン酸およびATPによるマクロファージ抗*Mycobacterium avium* complex活性増強作用とアポトーシス連動性
島根大学医学部微生物・免疫学 多田納 豊
- 4) *Legionella pneumophila*の活性酸素産生系を活性化しないマクロファージ侵入について
静岡県立大学薬学部免疫微生物学分野 三宅 正紀
- 5) レジオネラ感染防御における小胞体ストレスの重要性 九州大学大学院医学研究院細菌学分野 藤井 潤
- 4 生物製剤使用に伴う感染症
座長：九州大学医学部病態修復内科学 下野 信行
- 1) 生物製剤投与下の関節リウマチ患者における感染症発症危険因子の検討 河北総合病院内科 岡井 隆広
- 2) 当院における生物製剤投与下の感染症症例について 九州大学病院免疫・膠原病・感染症内科 藤 健太郎
- 3) 生物学的製剤使用後に感染症を併発した関節リウマチ患者の検討
亀田メディカルセンターリウマチ膠原病アレルギー内科 中下 珠緒
- 4) 免疫抑制的治療中の結核感染症の治療成績 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 山口 統彦
- 5) 当科で抗TNF製剤を使用したRAで認められた重篤感染症の臨床的特徴 埼玉医科大学総合医療センター 天野 宏一

- 5 海外旅行者の感染症対策 座長：川崎医科大学小児科 尾内 一信
 1) 久留米大学病院における海外旅行外来の現状と問題点 久留米大学医学部感染医学講座臨床感染医学部門 渡邊 浩
 2) 日本人海外渡航者の渡航先・渡航目的と疾病構造に関する検討
 在ベトナム日本国大使館、国立国際医療センター国際疾病センター 水野 泰孝
 3) 渡航者に対する未認可ワクチン接種の臨床研究～腸チフスと髄膜炎菌ワクチン
 国立病院機構三重病院・研究班髄膜炎菌ワクチン事務局 中野 貴司
 4) 東京大学医科学研究所病院における電子メールを活用した海外渡航者に対する健康相談と、旅行医学への取り組み
 東京大学医科学研究所感染症国際研究センター 前田 卓哉
 5) 日本の海外進出企業における新型インフルエンザ対策に関する追跡調査
 労働者健康福祉機構海外勤務健康管理センター 古賀 才博
 6 尿路・後腹膜腔感染症の画像診断 座長：神戸大学医学部附属病院手術部・感染制御部 荒川 創一
 1) ドレナージ後の転帰が異なった感染性腎嚢胞と後腹膜膿瘍症例 札幌医科大学医学部泌尿器科 高橋 聡
 2) 尿路・後腹膜腔感染症の画像診断—その実際と臨床的対応— 神戸大学腎泌尿器科 中野 雄造
 3) 感染性流産治療後、画像診断にて腎膿瘍が判明した1例 京都市立病院産婦人科 藤原葉一郎
 4) 尿路・後腹膜腔感染症の術前画像診断の有用性 藤田保健衛生大学坂文種徳徳會病院泌尿器科 石川 清仁
 7 マイコプラズマ感染症の今日的话题 座長：札幌鉄道病院 成田 光生
 1) 成人マイコプラズマ呼吸器感染症の初期血清診断における *Mycoplasma pneumoniae*-ELISA medacキットの有用性
 札幌医科大学医学部第三内科 田中 裕士
 2) マイコプラズマ脂質抗原を分子基盤とした診断—治療法の開発 産業技術総合研究所臨海副都心センター 松田 和洋
 3) マクロライド耐性 *Mycoplasma pneumoniae* 感染モデルにおける抗マイコプラズマ薬の有効性
 杏林大学保健学部免疫学研究室 田口 晴彦
 4) 小児マイコプラズマ肺炎における血清IL-18値の検討 新潟県立新発田病院小児科 大石 智洋
 8 HIVの母子感染 座長：三重県立総合医療センター産婦人科 谷口 晴記
 1) HIV垂直感染における胎盤関門の解析 日本大学医学部病態病理学系微生物学分野 相澤志保子
 2) 妊婦における頸管粘液中HIV-1ウイルス量測定の意義 獨協医科大学産科婦人科学教室 大島 教子
 3) 新生児白血球中のHIV-1プロウイルス定量の意義 国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター 金田 次弘
 4) 母乳マクロファージ上に発現したDC-SIGNを介したHIV-1の垂直感染 日本医科大学産婦人科教室 里見 操緒
 9 小児科外来診療において問題となる感染症の現状と対策 座長：島根県立中央病院小児科 菊池 清
 1) 小児伝染性膿痂疹症例から分離された原因菌の種類とその薬剤感受性から選択する抗菌薬療法
 横浜南共済病院小児科 成相 昭吉
 2) 平成19年夏に経験した腸管出血性大腸菌O-157感染症の集団感染と感染防止対策についての検討
 財団法人田附興風会医学研究所北野病院小児科 羽田 敦子
 3) 当院で経験した非典型的百日咳130例について 浜町小児科医院 遠藤 徳之
 4) 福島県相馬地区における6歳未満の全小児を対象としたインフルエンザワクチンの接種率と有効率
 公立相馬総合病院小児科 片寄 雅彦
 10 上気道・耳鼻咽喉科感染症の難治化の病態と対策 座長：旭川医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 林 達哉
 1) 乳幼児の急性中耳炎、細菌性結膜炎—中耳炎症候群における鼻汁の重要性について 順風会杉田耳鼻咽喉科 杉田 麟也
 2) 小児急性中耳炎起炎菌の耐性化の推移と課題 旭川医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 林 達哉
 3) 小児上気道感染症患児の鼻咽腔から検出された *S.pneumoniae* および *H.influenzae* の薬剤耐性化の変化
 宇野耳鼻咽喉科クリニック 宇野 芳史
 4) 小児中耳炎の重症度と抗菌薬およびワクチンの有効性の検討 和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 保富 宗城
 11 移植に伴う感染症 座長：九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野（小児科） 楠原 浩一
 1) サイトメガロウイルスRNAの定量検査 東北大学医学部保健学科 石井 恵子
 2) 同種造血細胞幹移植後に合併したHHV-6脳炎の6例 京都大学医学部附属病院感染制御部 齋藤 崇
 3) 腎移植1042例におけるEBV陽性移植後リンパ増殖性疾患の検討 名古屋第二赤十字病院腎臓病総合医療センター 後藤 憲彦
 4) 新しい無菌病棟におけるアスペルギルス感染症サーベイランス 九州大学医学部病態修復内科学 下野 信行
 12 *Clostridium difficile*による病院感染の現況とその対策 座長：春日井市民病院 山本 俊信
 1) *Clostridium difficile*の院内伝播に関するパルスフィールドゲル電気泳動を用いた検討 石心会狭山病院ICT 青島 正大
 2) 当院における *Clostridium difficile* 施設内感染 岐阜赤十字病院内科 伊藤陽一郎
 3) *Clostridium difficile* 関連下痢症多発時における臨床細菌学的検討および院内感染対策の課題
 千葉県がんセンター臨床検査部 里村 秀行
 4) 当院における *Clostridium difficile* 関連腸炎の集団発生例の検討 京都大学医学部附属病院感染制御部 長尾 美紀
 5) 佐賀大学附属病院における *Clostridium difficile* 関連疾患の現状と臨床的検討 佐賀大学医学部附属病院感染制御部 福岡 麻美
 13 血球貪食症候群 座長：島根大学医学部地域医療教育学講座 熊倉 俊一
 1) 日本紅斑熱における血球貪食症候群：骨髄および血液学的検討 山田赤十字病院内科 坂部 茂俊
 2) 血球貪食症候群およびParadoxical Reactionを伴った粟粒結核の一例 東京医科歯科大学膠原病・リウマチ内科 金子佳代子
 3) 水痘肝炎から血球貪食症候群を続発した重症成人水痘の一例 名古屋記念病院総合内科 井口 光孝
 4) EBV感染後に致死的な血球貪食症候群をきたしたX連鎖リッパ増殖症候群の1家系 島根大学医学部附属病院輸血部 竹谷 健
 14 クォンティフェロン検査の臨床と基礎 座長：聖マリアンナ医科大学微生物学・聖マリアンナ医科大学病院感染制御部 竹村 弘
 1) クォンティフェロン検査は結核症診断に有用か？ 聖マリアンナ医科大学微生物学、同附属病院感染制御部 竹村 弘
 2) 当院におけるQFT検査の臨床的検討 国立病院機構近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター感染症研究部 露口 一成
 3) TNF- α 阻害剤使用による関節リウマチ患者におけるQuantiFERON-TB 2Gを用いた結核感染診断の妥当性の検討
 札幌鉄道病院感染予防科 重原 克則
 4) QuantiFERON TB第二世代の院内感染対策への応用 定期検診と定期外検診

	千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部	猪狩 英俊
j ランチョンセミナー		13題
1 肺Mycobacterium avium complex症の診断と治療	司会：帝京大学内科学講座 慶應義塾大学医学部呼吸器内科	西谷 肇 西村 知泰
2 市中肺炎とレスピラトリーキノロン：その光と陰	司会：杏林大学 敬愛会中頭病院感染症科	小林 宏行 新里 敬
3 Bayes解析による呼吸器感染症の診断：非定型肺炎，集団感染トリアージ，MRSA肺炎	司会：国立病院機構南京都病院 佐賀大学医学部附属病院感染制御部	倉澤 卓也 青木 洋介
4 院内感染対策におけるQuantiFERON-TB-2Gの役割	司会：京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学 国立病院機構松江病院呼吸器科	飯沼 由嗣 矢野 修一
5 一般病院における呼吸器感染症診療の実際—レスピラトリーキノロンの使い方を含めて—	司会：大分大学医学部感染分子病態制御講座（内科学第二） 県立広島病院呼吸器内科・リウマチ科	門田 淳一 桑原 正雄
6 肺炎治療における注射用抗菌薬の位置づけ—カルバペネム系薬を中心に—	司会：東京都老人医療センター研究検査科 信楽園病院内科	稲松 孝思 青木 信樹
7 感染症における免疫グロブリン製剤の使い方	司会：元帝京大学第二内科 帝京大学医学部微生物学講座/内科感染症診療	国井 乙彦 斧本 康雄
8 臨床薬理学に基づいた発熱性好中球減少症に対する包括的戦略	司会：産業医科大学泌尿器科 京都府立医科大学大学院医学研究科血液病態制御学	松本 哲朗 野村 憲一
9 抗菌薬適正使用への介入～兼任の感染管理者にできること～	司会：東邦大学医学部外科学第三講座 広島大学病態制御医科学講座外科	炭山 嘉伸 大毛 宏喜
10 MRSA感染症をめぐる最近の話題	司会：神戸赤十字病院 昭和大学医学部臨床感染症学講座	守殿 貞夫 二木 芳人
11 抗真菌薬の感受性試験法を考える—イトラコナゾールのCLSIブレイクポイントと測定用キットの現状と問題点—	司会：千葉大学真菌学研究センター 帝京大学医真菌研究センター	亀井 克彦 内田 勝久
12 深在性真菌症のエビデンス—その意義と限界—	司会：宮崎大学医学部内科学講座免疫感染病態学分野 国立感染症研究所生物活性物質部	岡山 昭彦 宮崎 義継
13 感染症ベスト・プラクティス—地域から世界へ—	司会：慶應義塾大学病院 自治医科大学臨床感染症センター感染症科	北原 光夫 矢野 (五味)
k アフタヌーンセミナー		5題
1 敗血症および各種感染症とプロカルシトニンの動態	司会：徳風会高根病院内科 帝京大学医学部内科学講座	菅野 治重 川杉 和夫
2 H. pylori感染症の除菌適応	帝京大学医学部附属病院中央検査部 司会：所沢ロイヤル病院 北海道大学病院光学医療診療部	川上小夜子 深山 牧子 加藤 元嗣
3 実験モデルにおけるプロバイオティクスの腸管感染防御作用と作用機序 全身性炎症反応症候群（SIRS）に対するシンバイオティクス療法の効果	司会：岐阜医療科学大学 株式会社ヤクルト本社中央研究所	木村 吉延 朝原 崇
4 VAPに対する新たな治療戦略～耐性菌防止のために～	大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター 司会：日本赤十字社和歌山医療センター呼吸器科 北里大学医学部救命救急医学 北里大学病院薬剤部	清水健太郎 西山 秀樹 相馬 一玄 小林 昌宏
5 高齢者施設における肺炎球菌ワクチン有効性の検討—A double blind randomized controlled trial—	司会：大阪市立総合医療センター 三重大学医学部附属病院呼吸器内科	阪上 賀洋 丸山 貴也
l ICD講習会		1題
我が国の施設内感染対策の現状とCDCガイドライン	座長：京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学分野	一山 智 賀来 満夫
1) CDC最新ガイドラインのエッセンス	県西部浜松医療センター感染症科	矢野 邦夫
2) MRSA感染対策とアクティブサーベイランス	市立堺病院総合内科	藤本 卓司
3) 小児・成人の院内ウイルス感染症の現状と対策	岡山大学大学院小児科学	森島 恒雄
4) 結核感染対策	国立病院機構松江病院呼吸器科	矢野 修一
m 市民公開講座		1題
1) 高齢者の肺炎とその予防	司会：鳥根大学医学部内科学講座がん化学療法教育学 琉球大学医学部感染病態制御学講座（第一内科）	磯部 威 藤田 次郎
2) 小児感染症の症状の特徴	出雲市立総合医療センター小児科	泉 信夫
3) アメリカの感染症事情	亀田総合病院総合診療・感染症科	岩田健太郎
平成20年11月23日くにびきメッセにおいて、感染症セミナー「高齢者における感染症の問題と対策」を主催した。 感染症セミナー	司会：県立広島病院呼吸器内科リウマチ科 鳥根大学微生物免疫学 倉敷第一病院呼吸器センター	桑原 正雄 富岡 治明 松島 敏春
1) 高齢者肺炎の診断，治療上の問題と対策		

- 2) 高齢者におけるC型慢性肝炎 九州大学病院総合診療部 林 純
 3) 結核の現状と診断・治療の進め方—改訂感染症法・結核医療基準の見直しを踏まえて— 国立病院機構松江病院 竹山 博泰
 ランチョンセミナー 院内感染対策におけるクオンティフェロンの有用性 国立病院機構松江病院呼吸器科 矢野 修一

3. 雑誌刊行

感染症学雑誌82巻1号より逐次刊行した。

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.14, No.1より逐次刊行した。

地方会学術集会プログラムを感染症学雑誌に掲載。

4. 地方会

- ・第57回東日本地方会学術集会は、平成20年10月23日、24日の両日、前崎繁文会長のもとで第55回日本化学療法学会東日本支部総会（佐藤吉壮会長）と合同でさいたま市・大宮ソニックシティで行われた。
 特別講演 2題、シンポジウム 2題、新薬シンポジウム 1題、ワークショップ 1題、ベーシックレクチャー 1題、ICD講習会 1題、教育セミナー 18題
 一般演題 135題
 参加人数 1211名
- ・第51回中日本地方会学術集会は、平成20年10月17日、18日の両日、本田武司会長のもとで豊中市・千里ライフサイエンスセンターで行われた。
 特別講演 1題、教育講演 2題、ランチョンセミナー 1題
 一般演題 30題
 参加人数 162名
- ・第78回西日本地方会学術集会は、平成20年12月5日、6日の両日、桑原正雄会長のもとで広島市・広島国際会議場で行われた。
 特別講演 1題、教育講演 2題、会長講演 1題、シンポジウム 1題、ICD・ICP講習会 1題、ランチョンセミナー 7題、アフターランチセミナー 2題、合同シンポジウム 1題
 一般演題 132題
 参加人数 634名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習場所、期間及び人員

- ①. 院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

はまぎんホールヴィアマール	(医師)	平成20年12月10日、11日	88名
	(看護師)	平成20年12月10日、11日	88名
	(薬剤師)	平成20年12月10日、11日	86名
	(臨床検査技師)	平成20年12月10日、11日	86名
九州大学医学部百年記念講堂	(医師)	平成20年10月23日、24日	95名
	(看護師)	平成20年10月23日、24日	105名
	(薬剤師)	平成20年10月23日、24日	107名
	(臨床検査技師)	平成20年10月23日、24日	101名

- ②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

東北大学医学部長陵会館	(医師)	平成20年10月9日、10日	36名
	(看護師)	平成20年10月9日、10日	43名
	(薬剤師)	平成20年10月9日、10日	27名
	(臨床検査技師)	平成20年10月9日、10日	25名
はまぎんホールヴィアマール	(医師)	平成20年10月30日、31日	93名
	(看護師)	平成20年10月30日、31日	97名
	(薬剤師)	平成20年10月30日、31日	60名
	(臨床検査技師)	平成20年10月30日、31日	64名
神戸国際会議場メインホール	(医師)	平成20年12月18日、19日	97名
	(看護師)	平成20年12月18日、19日	96名
	(薬剤師)	平成20年12月18日、19日	64名
	(臨床検査技師)	平成20年12月18日、19日	63名
大分県医師会館	(医師)	平成20年11月23日、24日	53名
	(看護師)	平成20年11月23日、24日	50名
	(薬剤師)	平成20年11月23日、24日	34名
	(臨床検査技師)	平成20年11月23日、24日	34名

- ③. 高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

2) 講習内容

1. ①院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会、②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

医療機関における感染制御	50分
高齢者介護施設における感染制御	45分
看護における感染対策（環境整備を含む）	50分
洗浄・消毒・滅菌の基本と実際	50分
院内・施設内感染関連法令	40分
院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）	50分
抗菌薬適正使用と耐性菌感染症（PK/PD. TDM）	45分
呼吸器感染対策	40分
血液媒介感染対策（肝炎対策、職業感染を含む）	45分
ウイルス感染対策（腸管感染症、ワクチンを含む）	45分
医療器材関連感染（カテーテル感染を含む）	40分
周術期感染対策	40分
院内感染対策のシステム化	1時間
パネルディスカッション	1時間

2. ③高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

大規模施設における感染対策システムの構築	45分
感染症サーベイランス・微生物モニタリングの実際	45分
院内ラウンドの実際とそのポイント	45分
抗菌薬および消毒薬の管理	45分
大規模流行を起こす感染症への対応	45分
感染対策に関連する環境整備	45分
感染対策教育・研修システムの構築と人材育成	45分
アウトブレイク対応	45分
リスクコミュニケーション・メディア対応	45分
感染対策における情報入手と活用法（最新情報の紹介を含む）	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
地域における感染対策ネットワーク構築	45分
感染対策活動事例の紹介（わが病院における感染対策）	45分
パネルディスカッション	80分

6. 施設内感染対策相談窓口事業

平成20年	3月1日～平成20年	3月31日	質問件数	3件
平成20年	5月1日～平成21年	2月28日	質問件数	58件

7. 感染症専門医

1) 感染症専門医試験合格者 65名

(敬称略)

赤嶺 盛和	秋山 博	天羽 清子	荒川 創一	安東 栄一	池田 雄史	泉川 公一	磯崎 淳
糸山 智	稲見由紀子	稲本 真也	井上 淳	井畑 淳	今村 顕史	岩田健太郎	上田 敦久
宇野 健司	大崎 雅也	岡 秀昭	加藤 純大	川田 真幹	木村 聡	木村 光明	久保園高明
栗田 伸一	近藤 晃	近藤 成美	齋藤 好信	坂本 晋	佐々木信一	佐藤 武幸	佐野 彰彦
皿谷 健	志智 大介	砂川 恵伸	高橋 義博	田沼 順子	堤 裕幸	徳安 宏和	中尾 彰宏
中西 弘有	中村祐太郎	野口 正	橋本 篤	蜂谷 勤	樋口るみ子	久田 剛志	姫路 大輔
廣畑 俊成	福島啓太郎	藤島清太郎	布施 闔	北條 宣政	松原 啓太	宮川 寿一	三宅 典子
茂呂 寛	矢内 充	矢野 邦夫	矢野 晴美	山根 一和	山本 夏男	横山 敏之	米田 一彦
渡辺 和良							

2) 更新者 225名

3) 指導医 25名

4) 感染症専門医認定研修施設 190施設（ホームページ参照）

5) 専門医育成経過措置としての連携研修施設 研修に3年を要する施設 17施設（ホームページ参照）
研修に4年を要する施設 8施設（ホームページ参照）

6) 認定指導医規約改正（10頁参照）、専門医育成経過措置要項改正（11頁参照）

8. ICD制度協議会

新規認定者 172名 更新者 141名

9. 6月19日～22日にKuala Lumpurで開催されたThe 13th International Congress on Infectious Diseasesにおいて、シンポジウム「Influenza in Animals and People」を共催した。
10. 『抗MRSA薬適正使用の手引き（改訂版）』を社団法人日本化学療法学会と合同で出版した。
11. 四学会（日本化学療法学会、日本環境感染学会、日本臨床微生物学会）で『微量採血用穿刺器具の取扱について』作成（ホームページ掲載）

庶務報告

1. 会員数 10,264名 平成21年2月28日現在
2. 第82回日本感染症学会総会は平成20年4月17日、鳥根県民会館において行った。
3. 平成20年度評議員会は平成20年4月17日、鳥根県民会館において行った。
4. 理事会は5回行った。
5. 感染症学雑誌編集委員会は6回行った。
Journal of Infection and Chemotherapy編集委員会は11回行った。
JIC検討委員会は1回行った。
6. 学会賞選考委員会は1回行った。
7. 専門医審議会は2回行った。専門医試験委員会は6回行った。専門医テキスト委員会は3回行った。
8. 学会あり方委員会は1回行った。
9. 四学会理事長懇談会は2回行った。
10. 経理事務打合会は1回行った。
11. 抗MRSA薬適正使用の手引き（改訂）作成委員会は1回行った。

計算書類

平成20年度収支計算書は別表1の通りである。
正味財産増減計算書は別表2、貸借対照表は別表3の通りである。

第2号議案 運用財産剰余金処分案承認について

平成20年度運用財産剰余金80,885,266円は平成21年度運用財産に繰越すものとする。

第3号議案 財産目録について

財産目録（平成21年2月28日現在）は別表4の通りである。

第4号議案 平成21年度事業計画および収支予算案承認について

事業計画

1. 感染症に対する調査および研究ならびにこれらの援助、今年度の優秀業績の表彰
2. 感染症に関する学術講演の開催
 - ・平成21年4月23日、24日の両日、東京都・京王プラザホテルにおいて、第83回日本感染症学会総会学術講演会（会長・後藤 元）開催予定。
 - ・平成21年10月30日、31日の両日、東京都・東京ドームホテルにおいて、第58回東日本地方会学術集会（会長・岩本愛吉）開催予定。
 - ・平成21年11月26日、28日の3日間、名古屋市・名古屋国際会議場において、第52回中日本地方会学術集会（会長・鈴木賢二）開催予定。
 - ・平成21年11月19日、20日の両日、福岡市・九州大学医学部百年講堂において、第79回西日本地方会学術集会（会長・林 純）開催予定。
3. 感染症に関する学術図書の刊行

感染症学雑誌 刊行回数 隔月A4（6回）	部数：10,800部 頁数約132頁
総会プログラム講演抄録集	部数：11,400部
Journal of Infection and Chemotherapy 刊行回数 隔月A4国際版（6回）	オンラインジャーナル 頁数約74頁

地方会学術集会プログラムを感染症学雑誌に掲載
4. 感染症専門医テキスト刊行予定。
5. 抗菌薬使用のガイドライン（改訂版）を日本化学療法学会と合同で委員会を設置する（平成22年度刊行予定）。
6. 厚生労働省委託事業（一般競争入札予定）
 - ・院内感染対策講習会

- ・施設内感染対策相談窓口を設置
- 7. ICD制度協議会に加盟する（継続）。
- 8. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス事業に参加する（継続）。
- 9. 日本微生物学連盟に加盟する（継続）。
- 10. 関係学術団体との連絡協議
 - 日本医学会に評議員および連絡員を派遣し、医学発展のために各種問題につき相互に連絡強調する。

第5号議案 役員改選について

理事候補者

青木 信樹（社会福祉法人新潟市社会事業協会信楽園病院研究部部長）	重任
荒川 創一（神戸大学医学部附属病院手術部長・感染制御部長）	新任
今西 二郎（京都府立医科大学大学院免疫・微生物学教授）	重任
岩本 愛吉（東京大学医科学研究所先端医療研究センター教授）	新任
大西 健児（東京都立墨東病院感染症科部長）	新任
岡部 信彦（国立感染症研究所感染症情報センターセンター長）	重任
賀来 満夫（東北大学大学院医学研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学分野教授）	重任
木村 哲（東京通信病院院長）	重任
清田 浩（東京慈恵会医科大学青戸病院泌尿器科診療部長）	新任
桑原 正雄（県立広島病院院長）	新任
河野 茂（長崎大学病院病院長）	重任
後藤 元（杏林大学医学部第1内科教授）	新任
笹田 昌孝（滋賀県立成人病センター総長・病院長）	新任
館田 一博（東邦大学医学部微生物・感染症学准教授）	新任
長澤 浩平（佐賀大学医学部内科教授）	新任

監事候補者

上田 孝典（福井大学医学部医学科病態制御医学講座内科学（I）教授）	新任
砂川 慶介（北里大学北里生命科学研究大学院感染制御科学府教授）	新任
富岡 治明（島根大学医学部微生物・免疫学教室教授）	新任

第6号議案 次期会長承認について

福井大学医学部医学科病態制御医学講座内科学（I） 上田 孝典 教授

第7号議案 次々期会長候補者選任について

第8号議案 次々期総会開催地および会期について

第9号議案 名誉会員および功労会員承認について

名誉会員推薦：川名 尚 先生 酒井 克治 先生 馬場 駿吉 先生 藤本 幹夫 先生
 功労会員推薦：猪狩 淳 先生 松島 敏春 先生

その他

認定指導医規約

平成18年 4月20日制定
平成20年 10月16日改正

本学会は感染症専門医養成のための研修指導を行うにふさわしい医師を、日本感染症学会指導医（以下指導医という）として認定し、研修指導を委嘱する。

[指導医の資格]

1. 指導医は日本感染症学会の感染症専門医で、次の各項を満たすことを要する。
 - (1) 感染症専門医を取得後5年を経た者。
 - (2) 本学会の研修カリキュラムに基づく研修を指導できる者。
 - (3) 専門医取得後、専門医制度審議委員会が指定した指導医講習会^{※1}へ2回以上参加した者^{※2}。

[認定]

1. 指導医の認定を希望する者は、次の各項に定める書類（所定用紙）を専門医制度審議委員会に提出する。
 - (1) 指導医申請書
 - (2) 感染症専門医認定証のコピー
 - (3) 指導医講習会への参加を証明する記録
2. 専門医制度審議委員会は、提出された申請書類により指導医認定審査を行う。

[更新]

1. 指導医の資格は5年毎に更新しなければならない。更新の手続きを申請する者は次の各項を満たすことを要する。
 - (1) 感染症専門医資格を保持している者。
 - (2) 指導医の認定(更新)を受けてから直近の5年間、専門医育成のために尽力するとともに、下記の所定単位を総合して30単位以上取得した者^{※3}。但し、30単位中10単位は専門医制度審議委員会が指定した指導医講習会への参加であることを必須とする^{※3}。

単位取得の対象となる企画とその単位数は次のとおりとする。

専門医制度審議委員会が指定した指導医講習会へ参加した場合 ^{※4}	10
指導を受けた研修医師が感染症に関する論文（原著、症例報告）を筆頭著者としてレフェリー付雑誌に発表した場合（指導医が共著者として入っていること）	10
指導を受けた研修医師が感染症に関する論文（原著、症例報告）を共著者としてレフェリー付雑誌に発表した場合（指導医が共著者として入っていること）	5
指導を受けた研修医師が感染症に関する演題を学会 ^{※5} 等で口頭またはポスター発表した場合（指導医が共同演者として入っていること）	5
ICD講習会を受講した場合	5

[資格の喪失、取消]

1. 指導医は、次の事由によりその資格を喪失する。
 - (1) 指導医としての認定を辞退したとき。
 - (2) 更新の要件を満たさなかったとき。
 - (3) 指導医の認定更新を申請しなかったとき。
但し、留学や健康上の理由による休職等で更新条件を満たせなかった場合は、その期間を除外する。
また、他の何らかの事由により更新手続きが行えなかった場合は1年間の猶予期間を認め、翌年更新手続きを行うことができる。
 - (4) 専門医としての資格を喪失したとき。
2. 専門医制度審議委員会が指導医として不適当と判定した場合は、理事会の承認を経て認定を取り消すことができる。

[付記]

- ※1 指導医講習会は日本感染症学会総会学術講演会または地方会学術集会の会長と専門医制度審議委員会が協議し、総会学術講演会または地方会学術集会のプログラムの一部として企画する。企画の内容は指導医の養成及び資質向上に相応しいものとし、1企画1時間以上であることが望ましい。
- ※2 平成22年3月1日以降に認定された専門医から適用する。なお、平成22年2月末日以前に認定された専門医の場合、平成22年度からは指導医講習会に1回以上、平成27年度からは2回以上参加していることを原則とする。また、1回の学会で複数の指導医講習会に出席しても、参加回数は1回と数えることとする。
- ※3 平成22年3月1日以降に認定された指導医から適用する。なお、平成22年2月末日以前に認定された指導医の場合、平成22年度からは20単位以上、平成27年度からは30単位以上（内、10単位は指導医講習会）を取得していることを原則とする。
- ※4 1回の学会において複数の指導医講習企画に参加した場合は20単位を上限とする。
- ※5 日本感染症学会総会および地方会、日本感染症学会が「専門医制度規則」において指定した日本医学会加盟学会と関連学会の年次講演会。

I. 連携研修施設について

連携研修施設申請資格

- 1) 指導医または暫定指導医が1名以上常勤していること。
- 2) 本学会の研修カリキュラムに基づく研修が可能であること。
- 3) 認定研修施設との十分な連携下に定期的指導教育体制がとられていること。
- 4) 良質な感染症の診療体制がとられていること。

連携研修施設の申請

連携する認定施設の指導医の推薦書を添えて、専門医制度審議委員会に文書で申請する。
専門医制度審議委員会がこれを審査する。

II. 暫定指導医について

感染症専門医制度の円滑な運営を図るために限られた期間、暫定指導医制度を設ける。

暫定指導医申請資格

以下の1)～3)のいずれかの条件を満たすとき、暫定指導医と認定し指導医に準ずる資格を付与する。

- 1) 感染症専門医を取得して5年未満の者（但し、平成22年3月1日以降は指導医講習会を2回以上受けていることを条件とする）。
- 2) 感染症専門医は取得していないが、次の条件を全て満たす者。
 - (1) 申請時点で日本感染症学会員歴6年以上で、学会費を完納している者。
 - (2) 基本領域学会の専門医（認定医）を取得している者。
 - (3) 感染症の臨床に関して、筆頭者としての論文発表1編、筆頭者としての学会発表2編の計3編あること。
 - (4) 指導医講習会を2回以上*受けている者（平成22年3月1日から適用する）。
- 3) その他、専門医制度審議委員会で認められた者。

暫定指導医の申請

連携する認定施設の指導医の推薦書を添えて、専門医制度審議委員会に文書で申請する。
専門医制度審議委員会がこれを審査する。

新たな暫定指導医の認定申請は平成25年2月末を期限とする。

暫定指導医の更新について

暫定指導医資格の有効期限は5年間とし、更新は認めない。

暫定指導医から専門医、指導医への移行の優遇について

- ・上記Ⅱの1)による暫定指導医は、専門医を取得してから5年に達した時点で自動的に指導医に移行する。指導医の更新時期はその5年後とする。
- ・上記Ⅱの2)または3)による暫定指導医は、暫定指導医としての期間と過去の研修施設（連携研修施設を含む）での研修期間の通算で3年に達した時点で専門医への受験資格を得る。
- ・上記Ⅱの2)または3)による暫定指導医が暫定指導医の期間中に感染症専門医の資格を取得した場合は、通算5年で指導医となれる。

III. 連携研修施設における研修期間について

専門医試験受験には、3年間本学会が認定した研修施設で感染症の研修をすることが必要とされている。但し、暫定指導医による連携研修施設での研修年限は以下のとおりとする。

- ・暫定指導医が上記Ⅱの1)による場合は連携研修施設での研修期間1年を1年と算定する（平成20年4月1日に遡って適用する）。
- ・暫定指導医が上記Ⅱの2)または3)による場合は連携研修施設での研修期間1年を0.75年と換算する。

IV. 指導医講習会について

日本感染症学会総会学術講演会及び地方学術集会の会長が企画し、専門医制度審議委員会で審議し承認する。企画の内容は指導医の養成及び資質向上に相応しいものとし、1企画1時間以上であることが望ましい。

※暫定指導医資格取得のための講習会参加は、1回の学会で複数の指導医講習会に出席しても、参加回数は1回と数えることとする。

平成20年度新任評議員

1. 桑原 知巳 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部分子細菌学分野)
2. 川上 賢司 (国立病院機構長崎神経医療センター)
3. 横田 憲治 (岡山大学医学部保健学科病態検査学)
4. 村田 昌之 (九州大学病院総合診療部)
5. 高田 昇 (広島大学病院輸血部)
6. 四柳 宏 (東京大学感染症内科)
7. 藤井 毅 (東京大学医科学研究所)
8. 小田原 隆 (東京大学医科学研究所)
9. 伊藤陽一郎 (岐阜赤十字病院内科)
10. 菅沼 明彦 (都立駒込病院)
11. 堀井 俊伸 (鳥取大学医学部附属病院感染制御部)
12. 光武耕太郎 (埼玉医科大学国際医療センター感染症科)
13. 水野 芳樹 (名古屋市立東部医療センター東市民病院)
14. 織田 慶子 (川崎医科大学小児科)
15. 山口 敏行 (埼玉医科大学感染症科・感染制御科)
16. 高倉 俊二 (京都大学医学部附属病院検査部・感染制御部)
17. 齋藤 崇 (京都大学医学部附属病院検査部・感染制御部)
18. 青島 正大 (石心会狭山病院)
19. 笠原 敬 (奈良県立医科大学附属病院感染症センター)
20. 西屋 克己 (奈良県立医科大学小児科)
21. 河野 武弘 (大阪医科大学附属病院輸血部)
22. 中野 隆史 (大阪医科大学予防・社会医学講座微生物学教室)

平成20年度
物 故 会 員

1. 堀口 祐司 先生 (正会員) (2008年 5月12日)
2. 森田 好樹 先生 (正会員) (2008年 6月 2日)
3. 矢田 毅 先生 (正会員) (2008年 7月16日)
4. 関口 恒夫 先生 (功 労) (2008年 7月25日)
5. 小林 讓 先生 (名 誉) (2008年 8月 4日)
6. 牛尾 博昭 先生 (正会員) (2008年 8月17日)
7. 森下 高行 先生 (正会員) (2008年12月10日)
8. 小田内里利 先生 (正会員) (2008年12月17日)
9. 由良 二郎 先生 (名 誉) (2009年 1月10日)
10. 石井 慶蔵 先生 (功 労) (2009年 1月23日)
11. 佐藤 信博 先生 (正会員) (2009年 2月 6日)
12. 入交昭一郎 先生 (功 労) (2009年 2月13日)
13. 土井 達朗 先生 (評議員) (2009年 3月 5日)